

エチオピア 

COUNTRY PROFILE

2025



TABLE OF **CONTENT**

- エチオピア概況
- 人口構成
- 地域と文化
- 食文化
- 歴史と政治
- 日本との関係

- 会社概要



エチオピア概況

エチオピア連邦民主共和国は、人口約1億3,547万人（2025年）で、アフリカで最も成長している経済の1つであり、近年は年間5～8%の平均成長率を記録しています。

エチオピアの経済は主に農業に依存しており、コーヒーが主要な輸出品目で、次いで油糧種子、お茶、家畜が続きます。政府は製造業、建設業、サービス業などの分野の多様化を進めており、産業団地計画が繊維、衣料品、軽工業分野への外国投資を引き寄せています。アディスアババージブチ鉄道とグランド・エチオピア・ルネサンス・ダムは、地域貿易とエネルギー供給を強化するための主要な投資プロジェクトです。

エチオピアは東アフリカ共同体（EAC）およびコメサ（COMESA）のメンバーであり、広大な地域市場へのアクセスを享受しています。

アディスアババはエチオピアの首都であり、多くの国際機関や外交官の拠点として国際的な中心地とも呼ばれています。アフリカ連合（AU）や国連アフリカ経済委員会（UNECA）の本部があることでも知られています。

エチオピアは植民地支配を受けなかった国で、古代文明の歴史を有し、81以上の民族グループと多様な文化と言語を持つ国です。ただし、公式の公用語は主にアムハラ語と英語です。

エチオピアは日本との最も古い外交関係を持つ国であり、巨大な市場を抱え、アフリカでのビジネスの入り口となる国です。

エチオピア概況

人口

(2025)



1億3,547万人

中位年齢

(2024)



20.4歳

都市化率

(2023)



23%

GDP

(2023)



1,637億ドル

1人当たりGDP

(2023)



1,272ドル

平均経済成長

(2023)



6.5%

インターネット普及率

(2025)



21.3%

在留邦人

(2023)



180人

貧困率

(2021)



38.6%

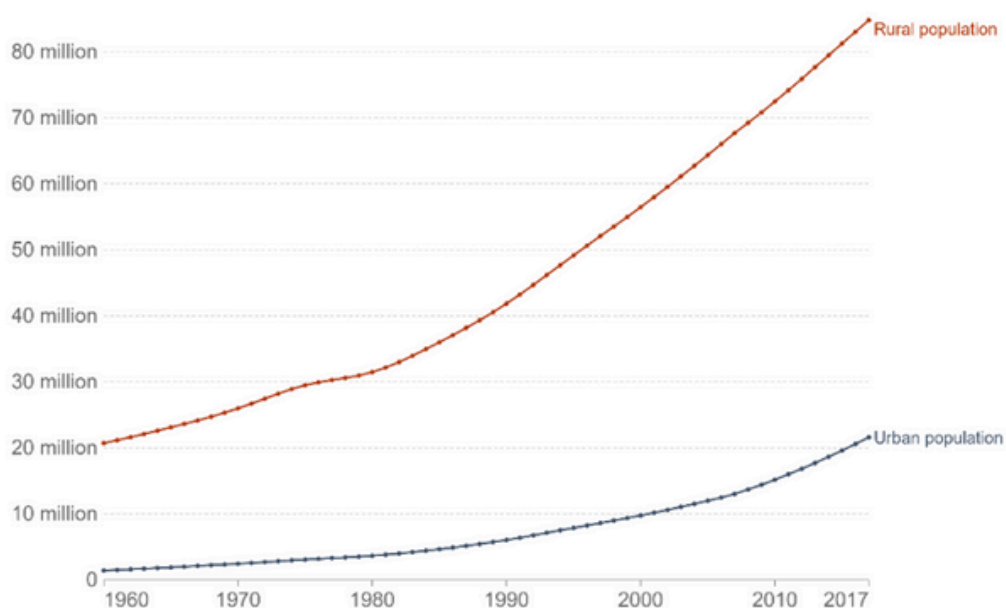


人口構成



総人口と都市型人口

エチオピアの人口は約1億3,547万人（2025年）で、ナイジェリアに次いでアフリカで2番目に人口が多い国です。人口増加率は年間約2.5%と高く、最も若い世代（0～14歳）が人口の約39%を占め、15～64歳の世代が約58%を占めています。都市人口の割合は低く23%ですが、都市人口の増加率は4.8%と非常に高いです。



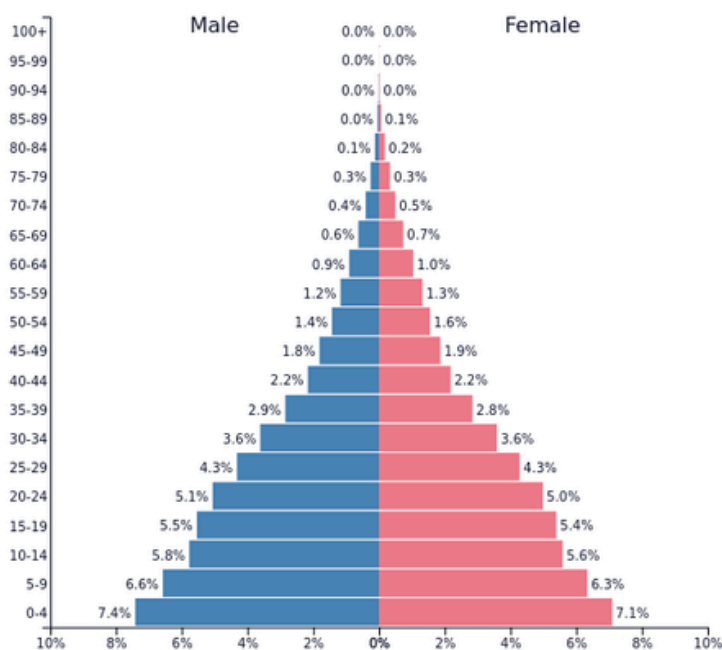
出所: [United Nations Development Programme](#)



人口構成

人口と中位年齢

エチオピアは若い人口を抱えており、総人口の約39%が15歳未満です。世界銀行の最新データによると、エチオピアの中位年齢は約20.4歳です。これは、30歳未満の人口が大部分を占めるという、同国の若々しい人口構成を反映しています。



出所: <https://www.populationpyramid.net/ethiopia/2025/>

地域と文化

国土と地域分布

エチオピアの土地面積は日本の3倍の広さで、総面積は110万平方キロメートルに達し、世界で27番目、アフリカでは10番目に大きな国です。エチオピアはアフリカの角に位置する内陸国で、地形が多様で変化に富んでいます。北から南に走るグレートリフトバレーが、東西に高原を分けていますが、国の中央部と北部を支配するエチオピア高原が主な特徴です。この高原は「アフリカの屋根」とも呼ばれ、険しい山脈や深い谷が広がっており、ブルー・ナイル川などの主要な川の源流となっています。

エチオピアの多様な気候は、豊かな森林が広がる高地から、乾燥した風景が広がる東部まで、さまざまな生態系を支えています。山岳地帯、肥沃な土壌、多くの河川が存在するため、エチオピアの地理は農業や集落のパターンに重要な役割を果たしています。

人口の大部分が都市、特に首都アディスアベバは高地地域に集中しており、特に中央部、北部、南部の肥沃な土地が農業を支えています。一方で、低地地域は人口がまばらです。



地域と文化

首都アディスアベバ

エチオピアの首都はアディスアベバです。国の中央部に位置し、エチオピア最大の都市であり、政治、文化、経済の中心地です。アディスアベバは、アフリカ連合（AU）の本部所在地であり、UNECAなどの国際機関の本部も置かれており、「アフリカの政治首都」として知られ、地域的および国際的な事務における重要な役割を反映しています。アディスアベバの2025年の人口は5,956,680人と推定されており、アフリカで最も急速に成長している都市の一つです。都市化や農村からの移住により、人口は着実に増加しており、都市の人口は比較的若く、30歳未満の割合が大きいです。若年層の増加により、教育、雇用、住宅に対する需要が高まっています。

アディスアベバは海拔約2,400メートルの高さに位置しており、温暖な気候を持っています。都市は現代的なインフラと伝統的なエチオピア文化が融合しており、賑やかな市場、博物館、歴史的な遺跡が点在しています。また、エチオピアの交通の中心地として、同国の発展において重要な役割を果たしています。



首都アディスアベバ



地域と文化

民族構成

エチオピアはアフリカの角に位置する非常に多様な国で、豊かな歴史、地理、文化遺産を反映した複雑な民族構造を持っています。エチオピアには80以上の民族が存在しています。最大の民族群にはオロモ（34.5%）、アムハラ（27%）、ティグレ（6%）、ソマリ（6%）、シダマ（4%）が含まれ、その他にはアフアル、ハディヤ、グラゲ、ウォライタなどの小規模な民族もあります。これらの民族はそれぞれ独自の言語、文化、伝統を持ち、規模、地理的分布、文化的慣習において大きな違いがあります。

言語

エチオピアは言語的に多様な国で、80以上の言語が話されています。これらの言語は主にアフロアジア語族に属しています。主要な言語群はクシティック語群（例：オロモ語、ソマリ語、アフアル語）とセム語群（例：アムハラ語、ティグリニャ語、グラゲ語）です。アムハラ語は公式な国語で、広く話されています。

英語は、すべての学校の7年生からの授業で使用する教科書の言語です。エチオピアは民族連邦制を採用しており、地域は民族的アイデンティティとその言語に基づいて区分されています。エチオピア人の大多数はキリスト教（主にエチオピア正教）またはイスラム教を信仰しており、いくつかの先住民の信仰体系も存在します。



食文化



エチオピアの食文化は活気に満ちており、その伝統に深く根ざしています。特徴的なのは、共食の習慣と豊かで風味豊かな料理の数々です。エチオピア料理の基本となるのは「インジェラ」と呼ばれる、テフというグルテンフリーの穀物から作られた酸味のあるスポンジ状の平たいパンです。インジェラは主菜として、また器具としても使われ、様々な煮込み料理（「ウォット」）をすくって食べるために使用されます。ウォットは肉（牛肉、羊肉、鶏肉）や野菜（レンズ豆、エンドウ豆、キャベツ）から作られています。

主食と代表的な料理

主食はインジェラという酸味のあるスポンジ状の平たいパンで、テフというグルテンフリーの穀物から作られています。インジェラは、ウォットと呼ばれる様々な煮込み料理と一緒に提供されます。ウォットは通常、肉（牛肉、羊肉、鶏肉）や野菜（レンズ豆、ひよこ豆、キャベツ）で作られます。ベルベレ（チリベースのスパイスミックス）やミトミタ（唐辛子のブレンド）などの香辛料がエチオピア料理に特徴的な風味を与えます。

典型的な食事には、インジェラを基盤に、さまざまなウォットやティブス（ソテーした肉や野菜）、シロ（ひよこ豆や豆の煮込み料理）などが添えられます。キトフォ（スパイスバターで混ぜた生牛肉）は、特にアムハラ族やティグレ族の人々の間で人気のある料理です。その他の一般的な料理には、ドロウォット（ゆで卵入りの鶏肉の煮込み）、ゲンフォ（お粥）、コロ（ローストした大麦や穀物）があります。エチオピア料理は伝統的に手で食べ、インジェラを使って料理をすくいます。コーヒーはエチオピア文化の中心であり、伝統的なコーヒーセレモニーは重要な社会的儀式です。

食文化

地域別の料理

エチオピアの地域別料理は、民族や地理によって異なり、各地域は独自の料理を提供しています。オロミアでは、ブンナ（コーヒー）とチェチェブサ（バターとスパイスで炒めた平たいパン）が主食です。アムハラ地方では、ドロワット（スパイシーな鶏肉の煮込み）とインジェラが人気で、よくゆで卵と一緒に提供されます。ティグレ地方は、ティフロ（大麦を使った料理）とズィグニ（スパイシーな牛肉の煮込み）で知られています。南部諸国では、サンブサ（揚げ菓子）とキトフォ（スパイスバターで味付けしたひき肉）が有名です。アファール地方の料理は、ハムリ（肉の煮込み）と大麦で作ったインジェラが特徴です。東部地域では、ソマリアの影響を受けたバリス（スパイス入りのご飯）とマラク（スープ）があります。各地域は、テフ、大麦、レンズ豆、香辛料などの地元で栽培された食材を重視しており、エチオピアの多様な文化遺産を反映しています。



インジェラ



歴史と政治

独立の歴史

エチオピアは世界で最も古い文明の一つで、歴史は3,000年以上前にさかのぼります。阿克苏ム王国（紀元1世紀から7世紀）は、東アフリカの主要な強国であり、貿易ネットワークと、4世紀にキリスト教を早期に採用したことで知られています。エチオピアのキリスト教のアイデンティティは、エチオピア正教会によって確立され、国の文化と政治において中心的な役割を果たしました。

19世紀後半、メネリク2世はイタリアの植民地化に成功裏に抵抗し、エチオピアの独立を守りました。これにより、エチオピアは植民地化されなかった数少ないアフリカの国の一つとなり（1936年から1941年の短期間のイタリア占領を除く）、その後も独立を保ち続けました。1974年、君主制はマルクス主義の軍事政権であるデアグによって倒され、これが激しい内戦と飢饉を引き起こしました。1991年、デアグ政権はエチオピア人民革命民主戦線（EPRDF）に取って代われ、民族地域に基づいた連邦制が確立されました。

政治体制

エチオピアは連邦制議会共和制で運営されており、政治システムは民族連邦主義に基づいています。国は民族グループに基づいて地域州に分けられ、それぞれが一定の自治権を享受しており、憲法は自己決定権を認めています。政府の長は首相であり、行政権を持っていますが、大統領は儀礼的な象徴的存在です。エチオピアの議会は二院制で、下院にあたる人民代表院と上院にあたる連邦院から成り立っています。



歴史と政治

行政府

首相は政府の長として重要な行政権を持ち、大統領は儀礼的な象徴的存在です。二院制の議会は、人民によって選ばれる人民代表院と、地域州を代表する連邦院で構成されています。司法は独立しており、連邦最高裁判所が法的問題を監督しています。最近の改革にもかかわらず、このシステムは民族間の緊張や政治的不安定性に関連する課題に直面しています。

地方分権

民族グループに基づいて権限が地域州に委譲される形態の分権化です。各地域は独自の政府、憲法、言語を持ち、ある程度の自治が認められています。このシステムは民族の自治を確保するために設計されましたが、民族間の緊張や紛争を含む課題を引き起こしています。地域州は地元の問題に対する権限を持っていますが、連邦政府は防衛や外交政策などの国の問題に対して権限を保持しています。この分権化は、民族の権利と国家の統一のバランスを取ることを目指しています。



日本との関係

外交関係

エチオピアと日本の外交関係は、アフリカの中で最も古いものの一つであり、1930年に日本とエチオピアが修好通商条約を締結したことに始まります。その後、1933年にエチオピアは大阪に名誉総領事館を設立しました。同様に、日本も1936年にエチオピアに公使館を設立しました。第二次世界大戦後、1955年に日本はエチオピアとの外交関係を回復し、1958年には両国がそれぞれの首都に大使館を設立しました。

経済協力と貿易

エチオピアと日本は、数十年にわたる顕著な経済関係を築いており、日本は農業、インフラ、産業、教育、医療などの分野で、さまざまな投資や援助を通じてエチオピアの経済発展を支援する重要な役割を果たしてきました。

最近の例としては、JICA（国際協力機構）がアディスアベバ市道路局（AACRA）に79台の重機を譲渡しました。この贈与援助は、約1,000万米ドル（5億5,000万エチオピア・ブル）の価値があり、アディスアベバの道路建設を支援し、同市の道路維持管理能力の強化を目的としています。

貿易関係に関しては、エチオピアは2022年に6,454万米ドル相当の輸入を行い、そのほとんどは自動車であり、日本への輸出額は約1億5,000万米ドルで、そのほとんどはコーヒー豆です。

日本との関係

技術協力と人材育成

アディスアベバにおいて、TICAD産業人材育成センターが最近開所されました。このセンターは、日本政府からの2,750万米ドル（約15億エチオピア・ブル）の助成金を受けて建設されました。

本センターは、アフリカの勤勉な人材の育成拠点としての役割を果たし、エチオピアの民間および政府部門を含むあらゆる産業分野において、カイゼン手法に関する研修および教育を提供しています。

在留邦人と人的交流

2023年10月時点で、エチオピアに住む日本人は180人で、これらの日本人は様々な社会経済活動や専門分野で活躍しています。もちろん、日本の国際協力機構（JICA）、大使館、その他の組織、主に民間部門からの専門家やスタッフも積極的な役割を果たしています。

これにより、両国の関係は経済・社会面だけでなく、文化や技術の交流、そして70年以上にわたる日本からのボランティア活動を通じた相互理解の促進にも貢献しています。

著者紹介

KAKEHASHI エチオピア 代表 ハブトム・ウェルダイ・カッサイ

ハブトム氏は、政府と民間部門で15年以上の経験を持つビジネス開発および国際協力の専門家です。市場調査、戦略的パートナーシップ、国際貿易、投資促進、持続可能な開発といった分野に精通しており、特にエチオピアのビジネス環境に関する深い理解を有しています。彼は日本企業と緊密に連携し、アフリカにおける貿易、投資、経済協力の促進を担っています。

彼のキャリアには、エチオピア・トルコ間の貿易交渉の主導、TICAD 2019でのSDGSとタイヤリサイクルに関するプレゼンテーション、JICAやアフリカ開発銀行（AFDB）などの国際機関との協力が含まれます。また、彼はエチオピア経済協会（EEA）の貢献者としても知られ、アフリカにおけるビジネス機会に関する研究に積極的に取り組んでいます。さらに、持続可能な開発をサポートする国際的なボランティアとしても活動しています。日本とアフリカのビジネス協力の架け橋となることを目指し、戦略的パートナーシップと政策提言を通じて、貿易や投資、持続可能な経済成長を促進しています。



会社概要

日本企業とビジネスを共創する！

AXCEL AFRICAは、日本やアフリカ諸国において、多様な連携を生み出しながら、社会課題解決型ビジネスと共に創出することを目指します。日本やアフリカ諸国の企業やヒトを繋げ、持続可能な新たな未来に向けた成長に貢献していきます。

- 1. 事業開発コンサルティング：** アフリカへの進出を目指す日系企業に対して、ビジネスコンサルティングサービスを提供しています。主に現地調査や事業戦略策定、現地の法務・労務・会計支援、補助金獲得及び実施支援などを行っています。
- 2. 研修プログラム：** 日系企業・現地スタートアップ・個人に対してアフリカにける事業アイデアや新規ビジネスの検証・ブラッシュアップをハンズオン支援の実施及び研修プログラムを提供します。
- 3. コミュニティ創出：** 一般社団法人アフリカクエストと共同し、アフリカに挑戦する日本人が成功するためのネットワークを提供し、新たなビジネスのフロンティアで活躍できるようサポートします。またケニアの首都ナイロビでコミュニティハウス JENGAを運営しています。



OUR VISION & MISSION

VISION

AXCEL AFRICAは、日本やアフリカ諸国において、多様な連携を生み出しながら、社会課題解決型ビジネスを共に創出することを目指します。日本やアフリカ諸国の企業やヒトを繋げ、持続可能な新たな未来に向けた成長に貢献していきます。

MISSION

1. 社会課題解決型ビジネスに挑戦する「企業」「ヒト」が集うハブ機能を担います。
2. 伴走型パートナーとして、アフリカ大陸の現場で共に新たなビジネスを創り上げます。
3. アフリカの現地と共に、社会性・経済性の高い社会的インパクトを創造します。



OUR SERVICE

01 コンサルティング

日本の「企業」をアフリカへ

国・地域選定からアフリカ進出における戦略策定、現地調査、法人設立、採用支援までをワンストップで提供します。現地での実行・マネジメント支援も提供しています。

1. 補助金獲得

プロポーザル作成
実証実験と運営支援

2. 現地市場調査

事業開発等の経営支援

02 研修プログラム

日本の「ヒト」をアフリカへ

日系企業・現地スタートアップ・個人に対してアフリカにける事業アイデアや新規ビジネスの検証・ブラッシュアップをハンズオン支援の実施及び研修プログラムを提供します。

1. スタートアップ視察ツアー

企画/運営/現地訪問調整

2. SDGs 学習プログラム

企画/運営/現地訪問調整

03 コミュニティ事業

アフリカに挑戦する日本人をつなぐ

アフリカに挑戦する日本人が成功するためのネットワークを提供し、新たなビジネスのフロンティアで活躍できるようサポートします。またナイロビでコミュニティハウスを運営しています。

1. コミュニティハウス



- 安心・安全に宿泊できる場所の提供
- 月1回 meet up イベント企画/運営

2. オンラインメディア

アフリカに挑戦する日本人の海外メディア
Africa Quest.com

- アフリカ情報の発信
- 交流イベントの企画/運営

GET IN TOUCH

AXCEL AFRICAでは企業様向けにアフリカ進出に向けた無料相談会や社内勉強会などを実施しております。

また現地マーケットや補助金に関する各種お役立ちレポートを取り揃えております。ぜひまずはお気軽にご連絡ください。

CONTACT US:



www.axcelafrica.com



info@axcelafrica.com



JENGA HOUSE, Kileleshwa, Nairobi, KENYA

免責事項：当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、Axcel Africa及びKakehashi Africaがその正確性を保証するものではありません。また記述内容は、必ずしもAxcel Africa及びKakehashi Africaの見解を反映したものではありません。Axcel Africa及びKakehashi Africaは提供する情報および助言をできる限り正確にするように努力していますが、提供した情報および助言の正確性の確認・採否はお客様の責任と判断で行っていただいております。